

No.	区分	行為	種別1	種別2	種別3	名 称	地域	指定 年月日	備考
1		指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	どうきょう かちようもんよう えいにん 銅鏡 花鳥文様 永仁二年 三月十八日施入ノ銘アリ 一 面	川内	T7.4.8	重要文化財。一面。永仁二年(1294)の銘。オリジナルは新田神社にあり、レプリカが歴史資料館に展示されている。
2		指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	はくじゆたかがりきよう 柏樹鷹狩鏡 一面	川内	S28.11.14	重要文化財。一面。径22.5cm・重さ614g。オリジナルは新田神社にあり、レプリカが歴史資料館に展示されている。
3		指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	あきくさきようちようきよう 秋草蝶鳥鏡 一面	川内	S28.11.14	重要文化財。一面。径20.6cm・重さ500g。オリジナルは新田神社にあり、レプリカが歴史資料館に展示されている。
4		指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	にったじんじやもんじよ 新田神社文書(百二十四通) 九巻、一枚	川内	S58.6.6	古文書8巻(永万元年(1165)から寛文3年(1663)のもの)。新田宮縁起1巻。禁制の札1枚(天正15年(1587)4月27日)。すべて寄託資料として歴史資料館に収蔵。展示はレプリカ。
5		指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	ふなだいくおうてきけかんけいりよう 船大工構木家関係資料	川内	H7.6.15	文書・差図類・道具類。主として明暦3年(1657)から享和2年(1802)の技術伝授書・建造記録・造形図面・大工道具等(船首・二形の軍船・安宅型船の唯一の図面あり)。
6		指定	記念物	史跡		まつまこくぶんじあ 薩摩国分寺跡	川内	S19.11.13	S19.11.13塔跡指定。S51.6.16追加指定(寺域・鶴峯窯跡)。S57.10.14追加指定(西金堂跡)。指定面積:17,356㎡。公園面積:16,449㎡。天平13年(741)聖武天皇の詔。薩摩国分寺は奈良末期から平安初期創建か。S60(1985).4.26「薩摩国分寺跡史跡公園」として開園。
7		指定	記念物	天然記念物		ながとし 永利のオガタマノキ	川内	S19.11.13	樹齢約800年。幹囲6.70m。樹高22.0m。根回り10.89m。長崎県小長井町のオガタマノキとともに大樹の双壁といわれる。 H29.3.1所有者変更(旧・宮浦博史・西村洋子)R01.10.07更新
8		指定	記念物	天然記念物		ふじかわてんじんがりゆうばい 藤川天神の臥龍梅	東郷	S16.10.3	菅原道真が大宰府を逃れ、藤川で余生を過ごした伝説が残る。臥龍梅は道真の手植えによる1本の梅から繁殖したと伝わる。
9		指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		とうごうぶんやぶしにんぎようじようり 東郷文弥節人形浄瑠璃	東郷	H20.3.13	17世紀後半、参勤交代に随行した東郷の郷士たちが文弥節の師匠を連れ帰ったのがはじまりと伝わる。国選択無形民俗文化財(S54.12.7)でもある。
10		指定	記念物	史跡		きよしきじようあと 清色城跡	入来	H16.9.30	史跡(国指定)指定面積174,346㎡。H21.7.23中ノ城・求聞寺城の一部追加指定(2筆11,147㎡)。
11		指定	記念物	天然記念物		いむたけ 蘭牟田池の泥炭形成植物群 ぶつぐんらく 落	祁答院	T10.3.3	池の西北岸一帯の低層湿原に群生している挺水植物が枯れた後堆積し、炭化して泥炭層を形成。湖底から離れた一部が「浮島」。約300点在。低層湿原での浮島は極めて珍しい。S28.3.31県立自然公園。 H17.11.8国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録。
12		指定	記念物	天然記念物		へご ヘゴ 自生北限地帯	上飯下飯	T15.10.27	熱帯・亜熱帯性のシダ植物の一種。幹の高さ4m、直径30～40cmに達するものも。指定面積:1,416.96㎡(民有地)。
13		指定	記念物	天然記念物		カラスバト	甑島	S46.5.19	全長約40cmでほぼ全身真っ黒く見える。本州中部以南の諸島に生息。県本土での観察記録はごくまれ。
14		指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		こしきじま 甑島のトシドン	下甑	S52.5.17	毎年12月31日に行われる。鼻が長く、恐ろしい面容をしたトシドンは、山から降りてきて子どもたちの行いを諭し、よい子になることを約束させた後、年餅を渡して帰っていく。H21.9.30、ユネスコ政府間委員会で、無形文化遺産の保護に関する条約(ユネスコ総会で採択)のもとに作成される「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載決定。
15		指定	有形文化財	建造物		きゅうますだけしじうたく 旧増田家住宅 つけたり せっかんとう 附 石敢当	入来	H26.12.10	別棟型民家の特徴を有し、入来麓において棟を直行させる型式は唯一である。オモテとナカエの間に樋が現存し、玄関の形式や座敷構えなど、随所に入来麓で唯一とされる古い形態が残されており、小屋梁に残すサス尻の痕跡から当初は茅葺であったことなど極めて重要な武家住宅である。
16		指定	記念物	天然記念物		こしきじま 甑島長目の浜及び潟湖群の しょうぶつぐんらく 植物群落	里・上甑	H27.3.10	長目の浜は2代薩摩藩主島津光久が「眺めの浜」と呼んだことが由来とされ、上甑島北部で北から南東方向に伸びる、長さ4km、幅40～100mの砂州が発達してきた浜である。指定対象は、長目の浜と、北から続く海風池、貝池、鎌崎池の3湖沼、砂州上の植物群落である。 1. 078. 042. 52㎡(15筆等)
17		指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		せんだむねなひき 川内大綱引	川内	R6.3.21	慶長年間(1596-1615)に島津義弘にちなんで始まったとされる。朝から「立山」「寄山」を使い綱練りを行い、「だん木祭」の後、上方下方に分かれて引き合う。引き手を邪魔する「押し隊」など独特。H11.7.28市指定→H18.4.21県指定→R6.3.21国指定。
18		指定	記念物	天然記念物		こしきじまのうら 甑島片野浦のカノコユリ群落	下甑	R8.2.17	カノコユリは、シーボルトが持ち帰り紹介したことで西洋において高く評価されたユリ属の植物で、オリエンタルハイブリッドで有名な「カサブランカ」など多くの園芸品種の原種。下甑島西海岸の片野浦には、土砂崩壊と強風で維持されている自然草原が成立しており、カノコユリの国内最大規模の生育地となっている。
19		選定	伝統的建造物群	伝統的建造物群保存地区		さつませんだい 薩摩川内市入来麓 でんとうきけんぞうぶつぐんほぞんちく 伝統的建造物群保存地区	入来	H15.12.25	約19.2ha。
20		選択	民俗文化財	無形民俗 文化財		さつませんだい 薩摩川内の大綱引き	川内	H31.3.28	慶長年間(1596-1615)に島津義弘にちなんで始まったとされる。朝から「立山」「寄山」を使い綱練りを行い、「だん木祭」の後、上方下方に分かれて引き合う。引き手を邪魔する「押し隊」など独特。H11.7.28市指定。
21		選択	民俗文化財	無形民俗 文化財		とうごうにんぎようじようり 東郷人形浄瑠璃	東郷	S54.12.7	17世紀後半、参勤交代に随行した東郷の郷士たちが文弥節の師匠を連れ帰ったのがはじまりと伝わる。国指定無形民俗文化財(H20.3.13)でもある。
22		選択	民俗文化財	無形民俗 文化財		こしきじま 甑島の葛布の紡織習俗	甑島	S45.3.1	くずの繊維を採取して布を織る習俗であり、木綿や麻が普及する以前の古い紡織の習俗を伝えるものであり、現在も鹿児島県甑島の一部にわずかに伝承されている。
23		登録	有形文化財	建造物		しんたいばし 新大橋	入来	H16.11.8	登録番号46-0016。明治42年架橋。
24		登録	有形文化財	建造物		かしまわりとうじゅうみんせいいかつ 鹿島村離島住民生活センター きゅういすたぎょうくみあい (旧蘭牟田漁業組合)	鹿島	H13.8.28	登録番号46-0008。昭和5年建設。アールデコ様式壁画装飾。
25		指定	有形文化財	建造物		にったじんじやほんてん 新田神社本殿 拝殿 舞殿 ちやくしん りようわきせつしや 勅使殿 西脇摂社	川内	H2.3.23	県内唯一の社殿配置。現在の本殿は嘉永3年(1850)の造営。舞殿、拝殿、勅使殿は天明4年(1784)の造替と推定。
26		指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	あみだにやういざざう 阿弥陀如来坐像 1軀 りようわきざう 西脇侍像 2軀	川内	S62.3.16	中央・阿弥陀如来坐像(平安)像高84.0cm。右側・観音菩薩立像(鎌倉)像高106.8cm。左側・勢至菩薩立像(鎌倉)像高104.0cm。
27		指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		みなみかたじんじや 南方神社春祭に伴う芸能(田打) たらうたらう おどり 太郎太郎踊	川内	S37.10.24	(高江太郎太郎踊り)毎年3月第1日曜日に行われる春を告げる農耕劇。オンジョ(爺)、テチョ(父)、太郎が方言でかけあう。

28	県	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		につたじんじや おたうえさい 新田神社の御田植祭に伴う 芸能 やっこおどり、ぼうおどり (奴踊、棒踊)	川内	S38.6.17	(倉野奴踊り)(宮内奴振踊)(寄田町棒踊)毎年6月の入梅前の日曜日。早乙女・早男が神田で田植えをする中、倉野・宮内の両奴踊が奉納。寄田棒踊は境内で奉納。
29	県	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		ぐみざきほんおどりそうふれん 久見崎盆踊(想夫恋)	川内	S46.5.31	慶長2年(1597)久見崎港から出兵し、帰らぬ夫や子の供養の踊りとされる。毎年8/16「慶長の役記念碑」の前で御高祖頭巾をかぶり、男物の羽織を着て腰に脇差し姿の女性により踊られる。
30	県	指定	記念物	天然記念物		オニバス自生地	川内	S30.1.14	指定面積:11,967㎡(民有地)。環境省RDB:絶滅危惧Ⅱ類(VU)。県RDB絶滅危惧Ⅰ類。国内の南限。7月末～8月発芽・開業。9月～10月開花。11月枯れる。
31	県	指定	民俗文化財	有形民俗 文化財		いりきちようなかぐみ 入来町中組の田の神	入来	S41.3.11	一石単体丸彫り。像高71cm。僧衣姿。宝永8年(1711)造立。台座正面上部に地蔵の梵字。
32	県	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		いりきちよう ほうそうおどり 入来町の痘瘡踊	入来	S38.6.17	寛政2年(1790)、文化11年(1814)など明治19年(1886)までに7回の記録がある。痘瘡(天然痘)が流行した時に踊られたが、現在は祝いの時に踊られる。紫の頭巾に黒紋付着物の女性だけで踊る。
33	県	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		こしきじま ないしまい 甌島の内侍舞	里	H13.4.27	各地に伝わる現存している中で、里ほど厳格な作法のもとに伝承しているところはないと言われている。
34	県	指定	民俗文化財	有形民俗 文化財		こしきじま 甌島の植物繊維衣料	下甌	H17.4.19	ビーダナシ・ニンブ・クズタナシ・オダナシ
35	県	指定	記念物	史跡		あすつらまふん 天辰寺前古墳	川内	H25.4.23	天辰寺前古墳は、川内川左岸の南側に位置し、竪穴式石室を有する直径約28m前後、高さ約3mの円墳と推定している。 調査の結果、旧地形に盛土と石室を構築したことが窺え、石室の基礎部は東西方向に主軸がおかれ、中段から持ち送った状態で上部は内傾し、構築されているのが特徴である。
36	県	指定	有形文化財	美術工芸品	考古資料	あすつらまふんしゆつどひん 天辰寺前古墳出土品	川内	H25.4.23	指定考古資料:員数24(貝製腕輪22、鉄製刀子1、銅鏡1) 石室は未盗掘であり、人骨と副葬品、着装品が埋葬時の状態をほぼ保っていた。銅鏡には、植物性繊維が附着しており、布に包まれていたことが推測され、刀子は木片が附着し、着装品のイモガイ腕輪は、壮年女性の左前腕に16個、右前腕に2個はめられていた。出土品等から5世紀代前半と考えられる。指定資料以外の出土品は埋蔵文化財管理施設で保存管理。
37	県	指定	有形文化財	建造物		ふじたけじゆうたくおても なかえ つ 藤田家住宅オモテ ナカエ 附 附属屋 氏神 石垣 石 しもん 門	入来	R7.4.30	藤田家住宅は、入来麓伝統的建造物群保存地区の武家屋敷群から1.5kmほど離れた位置に建つ薩摩藩古来の郷土の武家屋敷で、主屋と附属屋を主とする敷地全体が伝統的武家住まいの構えをよく残している。建築時期は、18世紀後半から19世紀初頭と考えられ、敷地内にオモテ及びナカエが棟を別にして雁行して並んでおり、附属屋、井戸、洗い場、風呂場等が揃っている。さらに、石造りの石垣、石門及び氏神が残る。内観の特徴として、玄関、座敷及び上段の間が一直線上に並び、奥に床の間がある。希少な呼称、「オモテンカシタ」の座敷を含む四畳間の上座敷を持ち、間取り変遷の痕跡を維持保全している。
38	県	指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	さつま せんだいいりき ちよう もくぞうあ 薩摩川内市入来町の木造阿 弥だ さんぞうつ もくぞうさうぎょう 弥陀三尊像 附 木造僧形 りつぞう 立像	入来	R7.4.30	三尊像は、秀麗な面立ちで、体部の衣文表現なども細部まで行き届いた造形である。制作されたのは、鎌倉時代13世紀半ば頃と考えられる。木造僧形立像は、三尊像にやや遅れて造られたとみられるが、作柄は優れており、鎌倉時代後期から室町時代(14～15世紀)頃の造立と考えられる。廃仏毀釈を免れた優れた鎌倉時代の彫刻としても、当時流行の先端であったとみられる「生身」性を付与された仏像の一例としても貴重なものである。
39	県	指定	記念物	天然記念物		しもこしきじまよはぎまるやまだんがいのほ 下甌島夜萩円山断崖の白並 くあけいひめうらそうぐん 糸姫浦層群	鹿島	H25.4.23	夜萩円山公園から望む姫浦層群の連続した重なりが観察できる露頭で、高さ約170mの断崖である。
40	県	指定	有形文化財	美術工芸品	書跡・典籍	里八幡神社の大般若波羅蜜 多経	里	H30.4.20	里八幡神社の大般若波羅蜜多経は、折り本で、10巻ずつ帙に入れられ、帙毎に千字文で番号が付けられている。折り本は紙高25cm、巾44cmで、行数は23～24行である。貞享5(1688)年に寄進され、300年余という長期間を経たものとしては、全体として良好な状態が保持されている。廃仏毀釈から毀滅を免れ、全600巻がそのまま保存したことはまさに奇跡であり、貴重な資料である。
41	県	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		いりきかんまい 入来神舞 おおみやじんじやれいさい (大宮神社例祭に伴う芸能)	入来	R2.4.28	舞の種目は元々は36番あるが、現在は7番。22番は12人剣舞の中に「君が代」が歌われ、君が代の発祥とも言われる。11/23の新嘗祭及び大晦日から年明けにかけて年2回奉納される。S49.7.1町指定→R2.4.28県指定に格上げ。
42	県	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財		いむたるもと た かきど 蘭牟田麓の田の神辰し	祁答院	R8.5.1	田の神辰しは、田の神講の成員の家の床の間に祀られていた田の神石像を一年交替で持ち回る宿換えの行事であり、「田の神講」の一部である。蘭牟田麓の田の神辰しは、花に彩られた美しさにおいて他に類はなく、田の神講と家移りが盛大な行事として伝承されていることが貴重である。
43	市	指定	有形文化財	建造物		えのくちばし 江之口橋	川内	S47.4.1	石造アーチ式2連。橋長:17.3m。幅3.6m。嘉永2年(1849)竣工。岩永三五郎の薩摩最後の橋。
44	市	指定	有形文化財	建造物		こうらいびし ぎぼうしゆ 降来橋と擬宝珠	川内	S61.3.26	石造アーチ式1連。現降来橋は明治25年11月の架替。擬宝珠には慶長7年(1602)江川久右衛門の陰刻。
45	市	指定	有形文化財	建造物		けんきじんじやほんでん 兼喜神社本殿および拝殿	川内	S61.3.26	平佐領主北郷三久が都城若宮八幡を勧請。
46	市	指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	ふくしやうじにおうせきぞう 福昌寺仁王石像	川内	S60.3.27	一對。玉龍山福昌禪寺(鹿児島市)にあったものを明治31年10月27日に宝亀観導師が移設。
47	市	指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	てんぶくじあみだによいぞう 天福寺阿弥陀如来像	川内	H4.3.25	石像。天明4年(1784)天福寺住職元堂律師が宮之城の仏師大磯作弥に依頼し建立。
48	市	指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	ゆういんほういんもんじよ 有印法印文書	川内	S61.3.26	一巻。長さ534cm。幅30.3cm。泰平寺住持の有印法印が伊佐郡に隠遁した際の仏生講式。
49	市	指定	有形文化財	美術工芸品	考古資料	きよみずでらきやうつぽ 清水寺経壺	川内	S60.3.27	一個。清水寺跡地から明治13年出土。経筒には釈迦如来画像4幅、法華経8巻が収納されていたとのこと。
50	市	指定	有形文化財	美術工芸品	考古資料	せいいれんげからくきもんわん 青磁蓮花唐草文碗 せいいじがきもんざら 青磁描き文皿	川内	H7.3.24	大園遺跡(中郷)発掘調査で出土。12世紀後半。碗と皿が十文字に配置。いずれも完形品で県内では珍しい出土例。
51	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	ゆういんほういん 有印法印の墓	川内	S42.9.23	一基。宝塔の五輪塔。「法印有印 天正19年(1591)2月日」の銘あり。
52	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	ひらさきえがた 平佐焼絵形	川内	S46.11.1	二冊。青絵形145枚。赤絵形121枚。計266枚。天保2年(1831)肥前有田に潜入した天辰村郷土向井与藤次が赤絵の技法を会得し持ち帰ったものといわれる。
53	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	もりどんぼる ほうとう 森殿原の宝塔	川内	S56.12.5	鎌倉期の宝塔。納骨孔あり。薩摩六郎忠直夫妻の墓とも。近隣の森稲妻神社に元はあった。
54	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	さつまこくぶんじそうとう 薩摩国分寺層塔	川内	S60.3.27	三基。鎌倉期と推定。少なくとも2度移設。
55	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	たいへいばしかきやうひ 太平橋架橋碑	川内	S61.3.26	明治8年(1875)初代太平橋竣工に係る碑。太平橋初代は西南戦争により焼失。旧市役所や市民会館(当時)など転々とし、H12.11.21歴史資料館から現地に移転。
56	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	くまのじんじやいたび 熊野神社板碑	川内	H1.9.26	一对の方柱板碑。観応元年(1350)11月13日入来院氏族寺尾惟重(道号清賢か)が、親の33回忌に建立した供養塔。松林山成就院宅満寺の跡。
57	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	たいへいじじやうそうぽ 泰平寺住僧墓	川内	H4.3.25	高さ240cmもある五輪塔や宝篋印塔・板碑・梵字入りの供養塔など多種多様。

58	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	ロザリオ聖母踏絵 せいぼふみえ	川内	H4.3.25	一枚。真鍮製。昭和41年下五代の八原(はちじり)家から発見。江戸期、長崎奉行所が所蔵した20枚のうち19枚(1枚は紛失)は現在東京国立博物館に保管。真鍮製で19枚中わずかに1枚の「ロザリオの聖母」と大きさや図柄が酷似。
59	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		みやざと 宮里田の神石像	川内	S56.12.5	四基。堀之内・川畑・植松・城の4地区。明治38～41年頃の耕地整理でまとめられた。一石単体丸彫り三基。文政13年(1830)のものもあり。一石双体浮彫り一基。
60	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		まつげたこうしんどう 松下庚申塔	川内	S56.12.5	一基。天文13年(1544)室町末期。独特の形で上作。
61	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		おしろえこうしんくようとうろう 尾白江庚申供養燈籠	川内	S56.12.5	一基。高さ3.5m。寛文13年(1673)造立。
62	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		いまむらこうしんどう 今村庚申塔	川内	H7.3.24	一基。宝塔的五輪塔。高さ1.33m。大永5年(1522)。南九州最古と推定。
63	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		じろじろおどり 次郎次郎踊 いすぐるじんじやはまづり (射勝神社春祭に伴う芸能)	川内	S56.12.5	毎年3月最初の申の日に近い日曜日。田打ちを模した無言の農耕劇。顔を布で隠したテヲたちが「ゴロ」という火のついた丸太で観客を害虫に見立てて追いまわす。*「いすぐる」の読みは保存会長に確認。
64	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		いぼたかおどり 飯母鷹踊	川内	H7.3.24	明治の初年、山崎(宮之城町)から嫁に来た人が伝えたと言われる。鷹匠に扮する人は紋付羽織に袴・陣笠に脇差という男姿で、左手に木製の鷹を持つ。これに対し相手の「餌差し」は黒紋付・白たすきに50cmくらいの棒を持つ。毎年11月の地区文化祭で披露される。
65	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		たきちようたいこおどり 高城町太鼓踊 たきじんじやれいさい (高城神社例祭に伴う芸能)	川内	H7.3.24	慶長11年(1606)高城神社創建の際、領主高城氏五代重雄父子の威徳を偲び、その霊を祭るために領民がこぞで9/15高城神社例祭に踊を奉納したのが起源。
66	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		ちゅうごうこむそうおどり 中郷虚無僧踊 すわじんじやれいさい (諏訪神社例祭に伴う芸能)	川内	H7.3.24	元禄・享保年間の伊勢講(伊勢神宮への参詣)で道中踊ったのが由来といわれている。中郷上婦人会が永年伝え、平成5年から2年に1度、8月の諏訪神社例祭で奉納。虚無僧の姿をした男役と、紫ずきんで頭をおおった女役が、三味線と拍子木にあわせて踊る。
67	市	指定	記念物	史跡		ひらきやきまあと 平佐焼窯跡	川内	S42.9.23	平佐焼は北郷家が有田から陶工を呼び寄せて、天明6年(1786)開窯。皿山一帯に多くの窯跡を確認。昭和16年廃絶。指定は現窯のみ。
68	市	指定	記念物	史跡		わぼくせき 和陸石	川内	S42.9.23	天正15年(1587)5月8日、豊臣秀吉と島津義久が泰平寺で宥印法印のとりなしのもと和陸したことを記念して置かれた。
69	市	指定	記念物	史跡		ふなまじまこふん 船間島古墳	川内	S46.11.1	竪穴式石室。奥行123cm、幅103cm、深さ78cm。5世紀頃と推定。壁面に朱が残存。
70	市	指定	記念物	史跡		ほんごうけぼろ 北郷家墓地	川内	S56.12.5	文禄4年(1595)初代北郷三久が都城から移封されてから13代久信までの領主墓地。
71	市	指定	記念物	史跡		とりおい もり 鳥追の杜	川内	S60.3.27	寛延2年(1749)聖観音石像、北郷久珉の歌碑など。日暮長者伝説由緒の地。
72	市	指定	記念物	史跡		とだかんのんせきとうぐんとう 戸田観音石塔群等	川内	S60.3.27	観音堂の位置する山を「観音山」、西に「梵山」「阿弥陀山」がある。真言宗洲上山持法院平徳寺跡。鎌倉末期から戦国期に渡る板碑・宝塔・宝篋印塔が多数。その中に元応2年(1320)の方柱板碑がある。観音堂には木像仏のほか大磯作弥作の河童木像がある。
73	市	指定	記念物	史跡		くじゅうあみだやまがけいぶつ 久住阿弥陀山磨崖仏	川内	S60.3.27	高さ3.6m、幅9.2m。約40種の仏の種子が陰刻。貞治2年(1363)2月8日の刻銘。
74	市	指定	記念物	史跡		てんぐばなかいてんぼうろうだい 天狗鼻海軍望楼台	川内	S60.3.27	日露戦争時使用の通信施設。4人常駐し、バルチック艦隊を監視。明治33～38年(1900-1905)県内3箇所のうち唯一現存の望楼台。
75	市	指定	記念物	史跡		だいいげんじあといりきいんしんかんけいせきとうぐ 大源寺跡入来院氏関係石塔群	川内	S61.3.26	室町期円覚阿闍梨が建立。後に入来院重朝により入来院氏の菩提寺に。天文11年(1542)重絶病没による宝篋印塔など。
76	市	指定	記念物	史跡		しまづとしひさ じゅんししや くようとう 島津歳久及び殉死者の供養塔	川内	H1.9.26	秀吉と義久の和睦後、秀吉に従わない歳久に対し、秀吉は義久に歳久の首を斬るよう命ず。義久は壺ヶ水で歳久を攻め、歳久は自決。この時主君に殉じた烈士の多くは東郷出身。その供養塔。
77	市	指定	記念物	史跡		たきしせきとうぐん 高城氏石塔群	川内	H1.9.26	信興寺跡。東郷流高城氏関係の石塔。
78	市	指定	記念物	史跡		きたやまでらじゅうそうぼ 北山寺住僧墓	川内	H1.9.26	室町～江戸期。桃花山十二坊のひとつ。宝篋印塔2、宝塔2、五輪塔3、卵塔2、無縫塔など。
79	市	指定	記念物	史跡		みずひききょうづか 水引経塚	川内	H1.9.26	台石付板碑型。大永2年(1522)に六十六部幸仙が埋経。経文大乘妙典が線刻された銅版2枚出土。
80	市	指定	記念物	史跡		よこおかこふん 横岡古墳	川内	H4.3.25	発掘調査の結果、8基の地下式板石積石室と、2基の土壇墓が確認され、蛇行鉄剣・銀環・須恵器・鉄鏃などの遺物が出土。公園化。
81	市	指定	記念物	史跡		とうかざんじょうこうしあせきとうぐん 桃花山浄興寺跡石塔群	川内	H7.3.24	開山尊慶上人の墓塔と伝えられる建長8年(1256)3月20日銘の塔が川薩地方で最も古い銘石塔といわれる。石幢(せくとう)と思われるが、高さ53.5cmの黒灰色溶結凝灰岩製で、塔身のみ残存。鎌倉期の層塔の残欠3基などもある。
82	市	指定	記念物	史跡		うえのしかんがいせきとうぐん 上野氏関係石塔群	川内	H11.4.22	鎌倉初期、薩摩太郎忠友の弟・上野太郎忠宗が居城した百次城(上野城)の一角。宝塔2基・宝篋印塔3基・五輪塔15基からなり、鎌倉末期の上野氏に関するものと推定。特に上野忠貞夫婦の墓とされる宝塔は古く、赤色溶結凝灰岩性を使い、珍しい。
83	市	指定	記念物	天然記念物		につたにんじや おおくす 新田神社の大樟	川内	S46.11.1	樹齢2000有余年と推定。阿多長寿院が奉納したと伝わる木像が安置。
84	市	指定	記念物	天然記念物		くみざき じせいち 久見崎ハマボウ自生地	川内	H12.8.1	準絶滅危惧種。全国でも最大級の群落とされる。
85	市	指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	みしまにおうぞう 三島仁王像	樋脇	S50.9.1	一対。仏師當士徳能(大磯作弥)作。仏魔毀釈で両方上半身下半身に割られ、離れたところに埋められた。昭和46年4月に現在地に復元。
86	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	とうごうしふやしほうきういんとう 東郷渋谷氏宝篋印塔	樋脇	S50.9.1	塔之原初代地頭寺尾重經の老老職五郎太郎西念の墓。H4に約10m移転。
87	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	ありまわかみやじんじやほうしやうざんけつ 霧島若宮神社の宝塔残欠	樋脇	S50.9.1	平安末期。当時の国司級の逆修塔か。霧島若宮神社の神体として祀られている。
88	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	くらのどんぼか 倉野殿墓	樋脇	S50.9.1	十数基。誰の墓かは不明。H4年3月川内川改修工事のため現在地に移転。
89	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	ひわきごうちようかんず 樋脇郷島敵図	樋脇	S63.6.24	二幅。一つは延享4年(1747)8月16日樋脇郷地頭所の要請により作成。もう一つはこの絵図をもとに安永10年(1781)1月22日に作成。
90	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		もとあん 本庵の田の神	樋脇	S62.1.10	高さ1.7m。台座は蓮の花をかたどり、正徳4年(1714)の陰刻。広目天の転用か?昭和57年10月現在地に移転。
91	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		ねじやま 祈地山の田の神	樋脇	S62.1.10	高さ0.77m。一石単体丸彫り。農夫型。右手にしゃもじ左手に扇子。寛政2年(1790)。
92	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		くらの たいに おどり 倉野太鼓踊 すわじんじやれいさい (諏訪神社例祭に伴う芸能)	樋脇	S48.3.14	昭和39年から途絶えていたが、町制50周年を機に26年振りに復活。毎年8/20の諏訪神社(倉野)例祭で奉納される。
93	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		ひわきふしおどり 樋脇武士踊	樋脇	S48.3.14	安永10年(1781)7月第19代島津光久巡視の折、玉淵寺で施餓鬼が行われ、公自ら歌曲を作り武楽を行ったのが起源。旧暦7/23に踊られていたが、現在は大きな行事の時に踊り、踊る日には三島神社で奉納後、踊られる。

94	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	かみてたいにおどり 上手太鼓踊	樋脇	S48.3.14	奈良・平安期に作曲されたといわれる。一時中断されていたが、H元年度復活。以前は豊年祭り(8/21)や上手地区の夏祭り(8月)でも踊られていたが、近年は特別養護老人施設で踊られる。踊る前には諏訪神社(市比野)で踊る。
95	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	とうのはらいっくたいにおどり はなながく 塔之原一區太鼓踊・花尾奏 すわいんじやなつまつり (諏訪神社夏祭に伴う芸能)	樋脇	S48.3.14	明治の初年、郡山花尾から導入。毎年8/25の諏訪神社夏祭りで奉納。一時中断されていたが昭和60年度復活。
96	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	のしたかまおどり 野下鎌踊	樋脇	S48.3.14	姉妹が苦難に耐えて父の敵討ちを果たした物語がテーマ。以前は7月18日野下馬頭観音祭りで奉納されていた。一時中断されていたが復活。現在は野下小運動会や各種行事などで披露される。
97	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	ふじもとぼうおどり 藤本棒踊	樋脇	S48.3.14	由来は諸説あるが武士の出陣や、平時では豊作と牛馬の安全を祈願し踊ったとされる。一時中断されていたが復活。藤本小学校運動会などで披露される。
98	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	いわたぼうおどり 若下棒踊 くまのじんじやれいさい (熊野神社例祭に伴う芸能)	樋脇	S48.3.14	江戸後期すでに行われていた模様。20人程度で踊る。何度か中断したが昭和61年度復活。3年ごとに熊野神社に奉納される。
99	市	指定	記念物	史跡	るりこうじあとせきとうぐん 瑠璃光寺跡石塔群	樋脇	S50.9.1	開基年月不詳。開山は文明6年(1474)遷化の快津律師。
100	市	指定	記念物	史跡	くらのまがいぶつ 倉野磨崖仏	樋脇	S50.9.1	梵字17、陽刻仏像1、陽刻五輪塔3、その他仏種子等から。この中で「オーンク」の磨崖は世界で一つといわれる。これに添えて文保2年(1318)9月5日寂円房が亡き親の供養と村人の平安利益を祈った旨が陰刻。
101	市	指定	記念物	史跡	くらのろくじどう 倉野六地藏塔	樋脇	S50.9.1	瑞泉庵跡。天正3年(1575)11月14日渡野辺讃岐守がその一族の生前供養のため造立。文の作者は瑞泉庵の首座の僧。長文の趣意書が珍しい。
102	市	指定	記念物	史跡	きしたぎやくしゆとうぐん 木下逆修塔群	樋脇	S50.9.1	宝篋印塔2、五輪塔13ほか。南北朝初期(1335)頃造立されたと伝えられる。
103	市	指定	記念物	史跡	ささみねぼうとうかんのん 世嶺馬頭観音	樋脇	S50.9.1	彫刻の手法から江戸期と推定。頭上に馬の頭、三面八臂。
104	市	指定	記念物	史跡	とうのはらどんばか 塔之原殿墓	樋脇	S50.9.1	高さ2.4m。塔身西側「キリノ」の書体は建長年間頃か。建長3年(1251)寺尾重経が入来院定心から塔之原を譲与されているので、塔之原殿(重経)の墓か。
105	市	指定	記念物	史跡	やくどうこうじんせきとう 薬師堂荒神石塔	樋脇	S50.9.1	荒神(かまどの神)講に伴う石塔。高さ1m33cm。宝永3年(1706)11月、荒神講の講衆が造立。付近に薬師堂があったといわれており、木像の薬師如来が祀られている。
106	市	指定	記念物	史跡	あたごやましようくんじざう 愛宕山勝軍地藏	樋脇	S50.9.1	1軀。現在の將軍地藏江戸中期のもので旧来の破損したものを再建。
107	市	指定	記念物	史跡	ひわきごうじとうかりやあと 樋脇郷地頭仮屋跡	樋脇	S50.9.1	寛文11年(1671)建造。前の道路は馬場と呼ばれている。射撃訓練をした台跡もある。
108	市	指定	記念物	史跡	かいけいしんじやうのうのいしむろ 快慶入定の石室	樋脇	S50.9.1	快慶は瑠璃光寺の住職で、寛文6年(1666)門弟の快久に職を譲ると隠居。その後、寺の脇の土中に深さ2.5m、1mの石室を作らせ、中に簀り、上に逆修塔(五輪塔型)を造立。寛文9年(1669)死去。
109	市	指定	記念物	史跡	ねれきたろくじどうとう 祢礼北六地藏塔	樋脇	S50.9.1	刻銘がなく年代や造立者は不明。笠石が大きいのが特徴。
110	市	指定	記念物	史跡	いちひのえき 市比野駅の跡	樋脇	S50.9.1	律令制の駅。延暦23年(804)年、大隅国蒲生駅と薩摩国田尻駅(永利か平佐付近)間の距離が長く、途中の櫟野に駅を設けたいと大宰府に申請し許可を受け設置。
111	市	指定	記念物	史跡	げんぼうじあとせきとうぐん 玄豊寺跡石塔群	樋脇	S50.9.1	応永9年(1402)、始祖寛元和尚が開山。記念碑、力石、延命地藏が敷地内にあり、北西約200m離れた場所に歴代住僧墓がある。
112	市	指定	記念物	史跡	あみたどん いわぼとけ 阿弥陀殿の岩仏	樋脇	S50.9.1	高さ2.5m、周囲6mの自然石に梵字・仏像・灯籠が彫り込まれている。東市来町に分神があり、所有者宅に享保元年(1716)の譲渡の板書がある。
113	市	指定	記念物	史跡	うしばな ぎやくしゆとうぐん 牛鼻の逆修塔群	樋脇	S50.9.1	小型の五輪塔が数基。時期や造立主は不明。
114	市	指定	記念物	史跡	ながたじやうさんぶつとう 永田十三仏塔	樋脇	S54.12.1	大永3年(1523)入来院の分家副田領主山口勘解由重経夫妻が一族11人の追善供養と自身2人の生前供養のため造立。初七日から33回忌までの13回の追善供養仏事に配当された仏。県内の十三仏供養の初か。
115	市	指定	記念物	史跡	ごだいじんみなもとのがとうのはか 後醍醐院源良任之墓	樋脇	H1.1.23	良任は慶長2年3月長子宗重と市比野に移住。慶長2年10月11日死去。
116	市	指定	記念物	史跡	しもいわと わんぶつ 下岩戸のかくれ念仏	樋脇	H14.4.25	江戸期に薩摩藩で行われた一向宗禁制に伴うかくれ念仏伝承地。自然にできた岩戸を一部加工。付近に3軒のみが信仰した仏があったと伝承されている。
117	市	指定	有形文化財	建造物	さきの ぼし 世野橋	東郷	H7.6.12	石造アーチ式1連。橋長:16.7m。幅4.65m。明治36年(1903)6/14建造。
118	市	指定	有形文化財	美術工芸品	まつおじんじや もくざう 松尾神社の木像	東郷	S46.7.13	男像と十二単衣の女像。通常は施錠されている。
119	市	指定	有形文化財	美術工芸品	のうぜ やまのくち こうぞう ぼさつ ぞう 南瀬山之口の虚空蔵菩薩像	東郷	H7.6.12	石像。年代不詳。頭に5つの仏の冠を戴き、右手に知恵の利剣。左手に摩尼の宝珠。香積寺を再建した京順和尚が桜島から運んだとする説も。
120	市	指定	有形文化財	美術工芸品	きようづかやまいたび 経塚山板碑	東郷	S46.7.13	板碑三基。うち一基に供養文、謂れ、建武2年(1335)10月11日などが陰刻。
121	市	指定	有形文化財	美術工芸品	のうぜかんのんこせきとうぐん 南瀬観音古石塔群	東郷	S57.11.10	宝塔・五輪塔・層塔・板碑など20数基。この中の板碑に永仁7年(1299)2月8日のものがある。散乱していたものをS48郷土史研究会が復元。香積寺からの移転か。
122	市	指定	有形文化財	美術工芸品	ししのどんこせきとうぐん 穴野殿古石塔群	東郷	H12.12.8	渋谷東郷氏の庶流穴野氏代々の墓と伝えられる。上中段に分けて配置(宝篋印塔3基、月輪塔婆1基、宝塔2基、宝篋印塔31基、双体石像1基、六地藏1基)。H6年からの県道工事に伴い移転。
123	市	指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	いしどう 石室の田の神	東郷	H2.5.15	一石単体丸彫り。旅僧型。(延)享元年(1744)造立。
124	市	指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	やまだたまだ 山田玉田の田の神	東郷	H2.5.15	一石単体浮彫り。明和7年(1770)5月2日造立。
125	市	指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	やまだしも 山田下の女田の神	東郷	H2.5.15	一石単体丸彫り。女性単体は珍しい。江戸後期と推定。
126	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	のうぜ たいにおどり 南瀬の太鼓踊	東郷	S46.7.13	千年前の神功皇后の三韓征伐の凱旋祝いに始まったとされる。現在、地区の行事で披露される。
127	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	やまだがく 山田楽	東郷	S46.7.13	文明17年(1485)に山田の戦をもとにして当時の苦しみや領主が無事に帰ってくることを願って歌い踊ったもの。現在、地区の行事で披露される。
128	市	指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	のうぜしも たいにおどり 南瀬下の太鼓踊(アケスメロ)	東郷	H7.6.12	豊田秀吉の朝鮮出兵に従軍した兵の士気を高めるために始まったとされる。現在、地区の行事で披露される。
129	市	指定	記念物	史跡	こじやくじあとせきとうぐんとう 香積寺跡石塔群等	東郷	S46.7.13	藤川天神の別当寺で廃寺だったのを普峰京順和尚が寛文6年(1666)4月に現地に再興。歴代住僧墓、不動明王石像、京順和尚木像が残る。
130	市	指定	記念物	史跡	こうじまがいぶつ 小路磨崖仏	東郷	S50.7.28	東郷渋谷一族の居城・鶴ヶ岡城跡の岩に彫られている。「紅顔紫色宝冠阿弥陀座像」であるが、この像は法界定印の印相で珍しい。永正14年(1517)の刻銘。
131	市	指定	記念物	史跡	つかさのこせきとうぐん 司野古石塔群	東郷	H2.5.15	大前氏の供養塔か。宝篋印塔が敷地内に約10、薬師堂付近に約15あるが碑銘は不明。宝塔・五輪塔。笠塔など約40あり、その中に慶長5年(1600)のものあり。

132	市	指定	記念物	史跡		やまだこせきとうぐん 山田古石塔群	東郷	H2.5.15	山田の諏訪神社の裏山に位置。「山田殿」と呼ばれる宝塔2基(大日如來の梵字)のほか、五輪塔・宝篋印塔など約20基。
133	市	指定	記念物	史跡		ふるじょうどんせきとう 古城殿石塔	東郷	H2.5.15	古城は国司・大前道友の居城で、「古城殿」と呼ばれる高さ約2mの層塔(三層)がある。二層目に仏像、三層目に梵字。平安末～南北朝斧洲城に居城した大前氏の霊を子孫が供養するため建立したと推定。
134	市	指定	記念物	史跡		しぶやしげかぼひ 渋谷重親墓碑	東郷	H2.5.15	徳治3年(1308)自決した渋谷東郷5代重親の墓碑と建立の趣旨を刻んだ石碑。東郷平八郎揮毫の仰靈碑。天明元年(1781)木脇氏・肥後氏が重親の霊跡を残すため建立。仰靈碑は昭和10年建立。
135	市	指定	記念物	天然記念物		くす うめ 久留須梅	東郷	H2.5.15	藤川天神の紅梅とほぼ同樹齢と推定される白梅の古木。
136	市	指定	有形文化財	建造物		かやぶき かやぶき簡	入来	S57.3.16	中世渋谷家の様式。文政9年(1826)7月改築。
137	市	指定	有形文化財	建造物		たなかてい しつくいかわでどう 田中郎の漆喰壁土蔵	入来	H6.2.8	建造年は不詳(江戸中期と伝えられる)。
138	市	指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	しやうりようじやうとにおうぞう 昌了寺跡の仁王像	入来	S62.3.7	寛保2年(1742)等身大の仁王像一對。山之口の大重諸左エ門の作。
139	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	ふなせどんばか 船瀬殿墓	入来	S62.3.7	船瀬氏が鎌倉期に創建した庵寺の後方にあり、寛政10年(1798)に一度寄せて整理、昭和49年に復元。鎌倉～戦国期。三重層塔3基、宝塔4基、五輪塔57基、宝篋印塔12基、卵塔1基。
140	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		まつげた 松下田の田の神	入来	S57.3.16	元文2年(1737)造立。像高61cm。
141	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		ちやうようたいにおどり 朝陽太鼓踊 すわじんじやれいさい (諏訪神社例祭に伴う芸能)	入来	H1.6.21	諏訪神社で8月28日に近い日曜に踊られる。
142	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		やましたたいにおどり 山下太鼓踊 すわじんじやれいさい (諏訪神社例祭に伴う芸能)	入来	H1.6.21	諏訪神社で8月28日に近い日曜に踊られる。
143	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		しもでたいにおどり 下手太鼓踊 すわじんじやれいさい (諏訪神社例祭に伴う芸能)	入来	H1.6.21	諏訪神社で8月28日に近い日曜に踊られる。
144	市	指定	記念物	史跡		せつと お石塔	入来	S49.7.1	入来院氏墓地。寛文6年諏訪神社前から遷座。石塔総数43。2段で下段が入来院一族。上段が住持墓。
145	市	指定	記念物	史跡		いくさ墓 いさ墓	入来	S49.7.1	中世逆修塔123基。1456-1691までの入来院氏及び家臣の墓塔(ほぼ逆修塔)。
146	市	指定	記念物	史跡		しぶやありしげ ぼとう 渋谷有重の墓塔	入来	S49.7.1	正安2年(1300)造立。多宝塔県下唯一供養塔。三代公重の弟、弘安の役で戦死。
147	市	指定	記念物	史跡		だいゑいいたび 大永板碑	入来	S49.7.1	大永5年(1525)造立。百万遍念仏信仰に関する徒等造立。塔身高112cm。
148	市	指定	記念物	史跡		てんぶんいたび 天文板碑	入来	S49.7.1	天文13年(1544)造立。一向宗信仰に関する板碑。
149	市	指定	記念物	史跡		しもで じゅうさんぶつとう 下手の十三仏塔	入来	S49.7.1	天正3年(1575)僧の供養のため造立。十三仏信仰に基づく石塔。塔身高64cm。
150	市	指定	記念物	史跡		ふもとしも きんじゅうさんかんのんとう 麓下の三十三観音塔	入来	S49.7.1	大永7年(1527)造立。塔身高54cm。塔身の正面と側面に33体の観音像が浮彫り。背面に33名の法名。生前供養塔。この形は県内唯一。
151	市	指定	記念物	史跡		だんなばか 旦那墓	入来	S49.7.1	渋谷氏7代(重頼)宝塔、14代(重豊)宝篋印塔。
152	市	指定	記念物	史跡		こうだけ かんじょうれつせき 神龍岳の環状列石	入来	S57.3.16	神龍岳にあるストーンサークル。初めから現位置にあったかは疑問。神祭りに使われたか、古代の支石墓か不明。
153	市	指定	記念物	史跡		くりしたまがもいぶつ 栗下磨崖仏	入来	S62.3.7	平貞(貞享)4年(1687)。岩壁を高さ1.38m、幅1m板碑型にくりぬき、阿弥陀如来座像を陽刻。
154	市	指定	記念物	史跡		はんしやどんばか 般者殿墓	入来	H1.6.21	宝塔は県下唯一で渋谷氏以前のものと推定。大型五輪塔は宝篋印塔と五輪塔を混成した塔型。由来がはっきりしない。
155	市	指定	記念物	史跡		いりきいんげたかぼとう 入来院重高墓塔	入来	H15.5.9	第16代領主。変形五輪塔。
156	市	指定	記念物	天然記念物		すわじんじや 諏訪神社のイスノキ	入来	S49.7.1	樹齢600年以上。幹周3m。
157	市	指定	記念物	天然記念物		たかのすじんじや 鷹之巢神社のイチイガシ	入来	S49.7.1	鷹ノ巣神社境内。幹周4.4m。
158	市	指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	さんのうだけもくぞうぶつさんそんぞう 山王岳木造仏三尊像	祁答院	H15.3.1	本尊の阿弥陀如来は高さ1.3m、脇侍の観音菩薩・勢至菩薩の2像は高さ40cm。
159	市	指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	えんみとういんにおうぞう 円明院仁王像	祁答院	H15.3.1	福寿山願寺円明院は豊州家の祈願所。豊州家12代久起が黒木に移して祈願道場とした。寛保2年(1742)一對の仁王像を建立。廃仏毀釈で埋められたが後年掘り出された。
160	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	おおむらごうえちず 大村郷絵地図	祁答院	S58.4.21	慶応3年(1867)から明治9年(1876)にかけて作製。
161	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	いむたごうしよかけいずちやう 蘭牟田郷諸家系図帳	祁答院	S58.4.21	美濃白紙に楷書で墨書。人名頭部の○印と系線は朱書き。S56紺色布表紙12分冊に補修製本。
162	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	うとろくじざうとう 宇都六地藏塔	祁答院	S58.4.21	園場整備事業で畠田の水田から出土した石塔残欠を宇都にあった8基の石塔の脇に移設復元。計34基。この中央に永正7年(1510)11月24日僧寿元が建立した六地藏塔がある。
163	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		いむたもとにし せつかんとう 蘭牟田麓西の石歌当	祁答院	H15.3.1	宝暦4年(1754)。高さ110cm、幅18cm、厚さ12cmで刻字のあるものでは県下2番目とも。
164	市	指定	記念物	史跡		やどころせきとうぐん 屋所古石塔群	祁答院	S52.4.1	十数基の五輪塔の中に残欠塔身に元応元年(1319)6月21日のものあり。屋所は鎌倉期に渋谷氏が政庁を置いたところとされ、蘭牟田で最も早く開けた所。S51積み替え、復元・整備された。
165	市	指定	記念物	史跡		だいじようみょうてんせんぶとう 大乗妙典千部塔	祁答院	S58.4.21	明和7年(1770)日置善石衛門忠竹が永源寺住職比丘洞田に碑文を依頼し、造立。四面に大乗妙典碑文。
166	市	指定	記念物	史跡		いわやかんのんまがいがふつ 岩屋観音磨崖仏	祁答院	S58.4.21	高さ・幅2m、奥行3mの岩穴の中に高さ1mの観音像が安置。岩穴の右方壁に二体連座の仏像が上部に二体、下部に四体、その右方壁上部に四体、下部に二体深く浮彫りあるいは線刻。
167	市	指定	記念物	史跡		えいげんじやとせきとうぐん 永源寺跡石塔群	祁答院	H15.3.1	鹿児島福昌寺の末寺。延享元年(1744)豊州島津家第12代久起が黒木に移転。菩提寺とした。廃仏毀釈で仏像等焼かれたが、裏山に隠れていた仁王と羽州(山形県)知元作の薬師如来石仏が残っている。(新)有川 敏江(変更日平成20年12月19日) 住所 薩摩川内市祁答院町黒木165番地 清掃:H28村原政和
168	市	指定	記念物	史跡		おおむらごうえちやうと 大村古城跡	祁答院	H15.3.1	康治元年(1142)以前に大前氏が築城。堀切の跡も残っている。
169	市	指定	記念物	史跡		よししげじやとせきとうぐん 良重寺跡石塔群	祁答院	H15.3.1	祁答院13代良重の菩提寺。跡に享保16年(1721)良重の追善供養塔など五輪塔、宝塔など10数基。

170	市	指定	記念物	史跡		りゅうせいじあとせきとうぐん 龍盛寺跡石塔群	祁答院	H15.3.1	天文3年(1533)～慶長期にかけての宝塔・五輪塔・宝篋印塔・無縫塔・笠塔婆等約50が残存。S57収集・復元。H8年の南日本石塔研究会の近隣の石窟調査で「龍盛寺」という名称が判明。
171	市	指定	記念物	史跡		だいおうしあとせきとうぐんとう 大翁寺跡石塔群等	祁答院	H15.3.1	慶長14年(1609)死去した樺山9代忠助の菩提寺。慶長19年(1614)11代久高が蘭牟田に移設。敷地内に寛延4年(1751)の仁王像二対、樺山21代久美の万延2年(1861)の五輪塔がある。
172	市	指定	有形文化財	美術工芸品	考古資料	いわぶえ 石甕	里	S57.2.1	約600gの砂岩製。時期は不明。日本の伝統的4音の音律が容易に発せられる。
173	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		さと むしやおどり 里の武者踊	里	S57.2.1	島津氏の三州統一の時期に由来か。里のみあるいは里で出陣、下駄で凱旋の踊りとされる。現在は落成式など祝いの席や地区行事の時に披露される。
174	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		さっころ踊 おどり	里	S57.2.1	江石地区にまつわる心中物語。初盆の家の慰霊、雨乞いの踊りとして権現山の雨タモシの段や津溜(八幡神社前)で踊られた。昭和46年に復活。干ばつの際に峯山権現堂で雨乞いのため踊られるが、近年機会も減り、地区の文化祭などで披露される。
175	市	指定	記念物	史跡		かめじょうあと 亀城跡	里	S56.3.6	中世のころ築城。小川氏の居城とされる。
176	市	指定	記念物	史跡		おがわ もり 小川の森	里	S56.3.6	甌島の島主小川氏を祀る地。歴代島主の墓や武士団の墓と菩提寺の墓がある。
177	市	指定	記念物	史跡		かくれやま 隠山のかくれ念仏	里	S56.3.6	江戸時代の一方向信者のかくれ念仏の場所。
178	市	指定	記念物	史跡		えざきばなきがなんめいぶん 江崎鼻祈願銘文	下甌	S48.4.1	甌島地頭第1代の岩山角太夫が安永6年(1777)2月に手打大性寺の住職らとともに江崎鼻の岸壁に祈願文を刻んだ。
179	市	指定	記念物	名勝		せ び ばくふ たき かのん 瀬尾瀑布(滝の観音)	下甌	S48.4.1	瀬尾川にあり、高さ55mから三段に落下する。三国名勝図会にも記されている。
180	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	しもこしきまいむたむらみけんちだいちょう 下甌嶋蘭牟田村御検地台帳 他四冊	鹿島	S52.6.20	①享保10年薩列甌嶋郡下甌嶋蘭牟田村御検地台帳 ②明治19年学校経費台帳 ③明治19年教員月給支給帳 ④明治42年赤痢病流行に係る物品購入簿 ⑤明治42年赤痢病諸入費領収簿
181	市	指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	かしま 鹿島のどん(梵鐘)	鹿島	H16.7.27	大正13年4月昭和天皇御成婚を祝し、当時の蘭牟田青年会が鑄造。昔は時を告げる鐘として親しまれ、非常時の警報の役割も担った。
182	市	指定	民俗文化財	有形民俗文化財		ツーロ	鹿島	H13.12.17	初盆の家へ贈る盆提灯の一種。一對。色紙を美しい模様に取り抜く作業が技巧を要し、その技術を伝承しているものが減少している。
183	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		かしま 鹿島のトシドン	鹿島	H13.12.17	トシドンは「年殿」で年の神を意味する。シュロの皮やドンザ、面等で鬼のように装い、大晦日の晩幼児の悪い点を諭し、よい子になるよう約束したあと餅などを与える。下甌のトシドンと同じ。
184	市	指定	記念物	史跡		いおとしおか 蘭落丘のかくれ念仏	鹿島	S52.6.20	一向宗禁止の折、蘭牟田の信者たちが蘭落丘の左右に聳える山を菩薩にみたてこの丘を聖地とした。役人の目を盗み隠れて念仏を唱えた地。昭和50年3月「念仏発祥の地」記念碑建立。
185	市	指定	記念物	天然記念物		ウミネコ繁殖地 はんしんよくち	鹿島	S52.6.20	鹿島断崖には昔からウミネコが飛来し、営巣地となっている。繁殖地の南限である。
186	市	指定	記念物	天然記念物		さんごでんせいち 珊瑚群生地	鹿島	S52.6.20	15700㎡。テーブルサンゴ、シロサンゴ、ハナヤサイサンゴ等が群生。
187	市	指定	記念物	天然記念物		かじはらけ だいい 梶原家の大ソテツ	鹿島	S52.6.20	樹齢730年以上。高さ7m。幹周5.1m。封建時代は西側に剣術の道場があり、ソテツの陰が格好の休憩所だった。
188	市	指定	記念物	天然記念物		とくせんであけいだいおよびしゅうへんじゅり 徳船寺境内及周辺樹林	鹿島	S52.6.20	文化2年の大火災で村の2/3が焼失。榎が半分が焼けたものの生き残っており、「道中禁煙」を警鐘するシンボル。
189	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		ぶし おどり 武士踊	下甌	H27.3.26	鎌倉時代小川氏が甌島に下向した折に、もたらされたものであり、その後、島津氏が甌島を支配し、関ヶ原の戦い等への出陣、凱旋を機会に奨励されたといわれている。
190	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		あはせ 青瀬ヤンハ	下甌	H27.3.26	1185年の源平合戦(壇ノ浦の戦い)で敗れた平家の残党が、源氏の追手や外敵から身を守るために、あみだした踊りであるといわれている。
191	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		あみ 網持ちばやし	下甌	H27.3.26	定置網引き唄であり漁夫が数隻に別れ、唄により力を合わせ勇壮に唄い合いながら漁を行っていたといわれている。
192	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		では おどり 出羽踊	下甌	H27.3.26	下甌に昔から伝わる盆踊りの代表的なものが出羽踊りである。この盆踊りを手打籠の御飯屋(地頭屋敷)の前庭で役人方に披露するのが年中行事の主な一つとされていたといわれている。
193	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		シアノーノー	下甌	H27.3.26	シアノーノー(修羅道能)に由来し、1185年の源平合戦(壇ノ浦の戦い)で敗れた平家の落人が、追手の目を逃れて瀬々野浦に流れ着き、いつの日か平氏再興を果たすために、後世にその念願を託したものとされている。
194	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		一條神社太鼓踊(一條神社例祭に伴う芸能)	川内	H30.8.27	島津義弘による朝鮮出兵の際に村人たちを鼓舞させることが起源とされ、毎年8月8日に近い8月の日曜日に一條神社例祭にて、五穀豊穡、無病息災、地域の発展を祈り奉納されている。陽成町内の4集落で伝えられていたものが、後継者不足により一時途絶えたが、南方神社合祀の際に復活し、地区民総勢で継承している。
195	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		中郷太鼓踊(諏訪神社夏の例祭に伴う芸能)	川内	H30.8.27	島津義弘による朝鮮出兵の際の凱旋祝い時期に始まったと地元では伝承されており、農村の士気向上や農作物への災害回避祈願も込められている。戦後から一時途絶えた時期もあったが、青英小学校創立100周年を機に復活した。矢旗飾りの紙垂は他の地域に見られない特徴があり、御幣と同じ稲妻型をしている。
196	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		高江太鼓踊(南方神社秋祭に伴う芸能)	川内	H30.8.27	豊臣秀吉の朝鮮出兵の際の兵士の士気を上げるために始まったと地元で伝承される。県内多くの太鼓踊りは同様の伝承を持つが、この踊は踊の構成自体に戦いの様子を表現していることに特徴がある。また、腰に『猿の子(サドンノコ)』の飾り物を下げる、矢旗は槍や剣を偽装させている等、踊の構成の意味だけでなく、道具や衣装の持つ意味を大切に守り伝えており、指定の意義があると認められる。
197	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		城上町太鼓踊(児美神社例祭に伴う芸能)	川内	H30.8.27	始まりは定かではないが、雨乞い、そして島津に領地を没収された高城氏の霊を鎮めるために踊られたとされている。御霊(ごりょう)信仰の跡が見える点も日本の古い信仰を考える上で貴重な文化財である。また、大太鼓の者の白装束に唐太鼓・鉦の者の黒を基調とした服装とのコントラストが際立っている。全体的に洗れられた動きであり、ビナマキと呼ばれる楽の隊形は川内川流域特有のもので独自性があり、指定の意義が認められる。
198	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		大馬越太鼓踊(鷹子神社例祭に伴う芸能)	入来	H30.8.27	15世紀後半から16世紀前半に盛行した念仏踊から始まり、18世紀中ごろに今の形の太鼓踊になったと言われている。入来にはカンメ(上楽)、シモンメ(下楽)、一本矢旗(副田楽)、アケスメロ(蜻蛉舞)の4種の太鼓踊に分けられ、大馬越太鼓踊は鉦が中心となるシモンメの一種である。素朴な古様の形式を伝承しており、貴重である。
199	市	指定	民俗文化財	無形民俗文化財		元村楽太鼓踊(諏訪神社例祭に伴う芸能)	入来	H30.8.27	門割制度の門農家ごとに諏訪神社にて五穀豊穡祈願や民衆の娯楽として太鼓踊りを奉納させたことが始まりとされている。もともと副田楽を踊っていたが、明治期に大里善作により編曲され、独自性の強い踊りとなった。また、衣装も赤い紙垂を使用する等特徴的である。